

2015年11月11日

The IEEE 11th International Conference on ASIC

参加報告書

群馬大学大学院 理工学府 理工学専攻 電子情報数理教育プログラム
修士1年 東野 将史



1. 基本情報

学会名称 : the IEEE 11th International Conference on ASIC

開催場所 : 中国 四川省 成都 Wangjiang Hotel

滞在期間 : 2015年11月2日(月)~11月7日(土)

発表内容 : Study on Maximum Electric Field Modeling Used for HCI Induced Degradation Characteristic of LDMOS Transistors
Masashi Higashino, Hitoshi Aoki, Nobukazu Tsukiji,
Masaki Kazumi, Takuya Totsuka, Haruo Kobayashi

発表日 : 2015年11月4日(水) D3-4

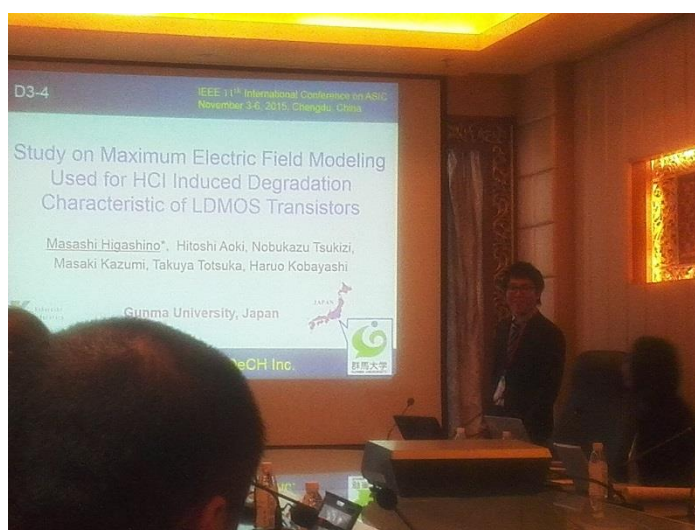


図 1. 発表の様子



図 2. 国境を越えた友情

2. 日程

- 1 日(日) : Tokyo Disney See 観光 (前夜祭)
- 2 日(月) : 出国 (羽田空港 → 北京空港 → 成都空港)
- 3 日(火) : 成都観光
- 4 日(水) : 学会発表 & Reception
- 5 日(木) : 学会発表
- 6 日(金) : 学会発表 & Banquet
- 7 日(土) : 帰国 (成都空港 → 成田空港)



図 3. 7days in China

3. 参加目的

- ① 国際学会を通じて、自分の能力向上を図るとともに、世界のレベルを感じ取る
- ② 異文化の理解
- ③ 友達作り
- ④ 異国の地でも屈しない強い精神力の向上

4. 得られた成果

① 語学学習意欲

国際学会を通して、語学学習の向上に繋がった。恥らうことなく、コミュニケーションを取ることができた。英語が通じない場合があったので、現地で中国語の勉強を行った。中国語の勉強を行ったことにより、現地での美女と写真を取ることに成功した。現在、英語と中国語の勉強に励んでいる。

② 自分への自信

国際学会で発表をしたことにより、自分の研究は国際的に認められたのだと実感することができた。また、発表後には数人の教授から質問を頂いた。興味を持ってもらえるプレゼンテーションを行えたと思うと、嬉しさが込み上げた。その反面、適切な対応をすることができず、歯痒い思いをした。元気だけでは乗り越えられない場面があると身をもって体験したので、今後の学習に活かしていきたい。

③ 異文化の理解

当初の中国の印象は、歴史的背景、メディアの情報より反日の印象が強かった。しかし、現地の人たちはとても親切であった。海外に行く上で、歴史やメディアの情報を学ぶことは、大変重要であると思う。しかし、それが主観となってしまうとトラブルの原因になるのではないかと思った。身の回りに溢れ返る情報は、ごく一部であることを忘れてはいけないと思った。

④ 友達作り

Yubin という中国人学生と友達になることができた。国境を越えた友情を築くことができた。彼とは、11月4日17:30頃に出会った。初めは、まじめな話を交わしているだけだった。しかし、まじめな話はいつまでも続けることはできなかった。私の友人が彼に“the most important Japanese word”を教えると、沈黙が破れた。彼は、今までに見たこともないような笑い方をしていた。とても、面白かったのだろう。彼からは“the most important Chinese word”を教えてもらった。“the most important Japanese word”を教えれば、万国で友達を作れると思った。それ以降、Yubin と共に行動した。最終日には Yubin とプレゼント交換を交わし、彼からパンダのぬいぐるみを貰った。ぬいぐるみは、私のデスクに飾ってある。

⑤ 異国の地でも屈しない強い精神力

郷に入っては郷に従え。現地では、英語が伝わらない場面が多かった。初めは、こんな土地でやっていけるのだろうかと不安だった。しかし、私はこんなことでは屈しない。郷に入っては郷に従えと言う様に、私は中国語の習得に励んだ。最後には、タクシーを停めてホテルまで帰れるようになったし、現地の女性とも少しだけ会話できるようになった。他にも、数々のトラブルを乗り越えた。ちょっぴり大人に成長できたと思う。



図 4. 憧れの China lady



図 5. China ladies との集合写真

5. 感想

6日間の中国生活は一瞬にして終わった。とても充実していたからだと思う。食事、町並み、人柄など全てが新鮮だった。特に発表を通して、大きく成長できたと思う。自分の研究に自信を持ち、更なる飛躍に勤めたいと思う。また、語学学習の重要性を再認識することができた。

6. 最後に

国際学会を通じて、様々な経験をすることができました。誰よりも濃密な時間を過ごすことができたと思います。自分自身の心身の成長や新たな価値観を得る事ができました。貴重な機会を与え下さった小林先生をはじめとする諸先生方に深く感謝申し上げます。